



令和7年度

福島県小学生バレーボール連盟
審判研修会

日時 令和 7年 4月29 日(火)

時間 8:45～12:45

場所 田村市総合体育館

福島県小学生バレーボール連盟審判委員会

目次

令和7年度 日本バレーボール協会 審判規則委員会 指針

『2025年度 レフェリーの目標と6人制の重点指導項目』

ルールの改正点・修正点について

2025年度 6人制ルールの取り扱いについて

2025年度 小学生ルールの取り扱いについて

小学生バレーボール大会における競技取り扱いについて

グリーンカードの説明

令和 7 年度 公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会 指針

令和 7 年度審判規則委員会は、以下の 5 項目を指針とし、各事業を推進する。

- 1 各ブロックと連携して、各種講習会や審判育成事業等を通して、次世代を担う若手レフェリーの育成に努める。また、子育て世代のレフェリーが活躍できる環境整備を引き続き推進する。また、男女共同参画をさらに進めるため、特に各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進する。
- 2 コンプライアンスに関する意識向上をさらに図るため、コンプライアンス教育を各種研修、講習会で計画的に実施する。レフェリーが主体的に取り組み、次世代に繋がるような指導の方法を確立する
- 3 選手・指導者を対象に、ルール及び取り扱いについての周知・徹底を図り、正しい理解とルール遵守を醸成する。
- 4 各種別において判定基準の統一を図り、安定した技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、バレーボールとしてのインテグリティが保てるようにルールを的確に適用し、公平・公正な競技運営を行う。
- 5 レフェリーは、国内競技会及び国際競技会をスムーズに運営するために必要な事前講習会に参加してレフェリーとしての質の向上を図る。技術のレベルアップがバレーボールの競技力向上になることを忘れてはならない。

-
- 指導部：
- 1 A級審判員にカテゴリーを設けた育成体制を推進し、映像等も有効に活用し、より具体的な技術指導を行うことでレベルに応じた強化事業を推進し、スキルアップを目指す。
 - 2 子育て世代のレフェリーについては、ライフスタイルに合わせ、安心して審判活動に取り組める環境を、JVA・ブロック等と連携しながら整備していく。
 - 3 レフェリーの責務として、選手・指導者に対しルールはもとより、ルールの改・修正点や取り扱い等を正確に伝達しルールの理解を深めることを目指し、スムーズな大会運営だけでなく競技力の向上に資する。
 - 4 各ブロックと連携をしながら、A級審判員だけでなく幅広く公認レフェリー、特に若手の育成事業を実施し、裾野の拡大を図る。
- 規則部：
- 見易く正確で分り易いルールブックの作成を目指し、4種別のケースブックの編集を行う。6人制とビーチバレーボールはFIVBからの最新情報を収集し、必要に応じて改正・修正を行う。また、一般の方を含め広くルールを伝達するためホームページでの情報提供について基礎的検討を行う。
- 登録部：
- JVAメンバー制度（MRS）に従って、A級審判員等のMRS登録の完了を目指す。また、早期登録手続きの完了と公認審判員の現状把握を行うために、各ブロック・都道府県との連携を図りながら、B・C級審判員資格保有者数の確認および登録者数の拡大を目指す。

以上

『2025年度 レフェリーの目標と6人制の重点指導項目』

修正版

JVA競技普及推進本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定をするための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。
- (4) 試合での的確な判定や講習会等を通して、正しいルールや取り扱いをチームに伝える。

2 重点指導項目

【ファーストレフェリー】

- (1) ハンドリング基準について
 - ・すべてのレフェリーが統一できるようにする。少なくとも、試合を通して一定した判定ができるよう基準をもつ。
 - ・特に、オーバーハンドを用いたプレーのハンドリング（キャッチ）について、同一の基準で判定を行う。
- (2) スクリーンについて
 - ・チームが意図してスクリーンを形成している疑いがある場合は注意を与える。チームがスクリーンの形成を戦略として使うことを許してはならない。
- (3) 不法な行為について
 - ・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度でルールを適用する。
 - ・最終判定後、セカンドレフェリーと協働し、コートを確認する。
 - ・軽度な不法行為を繰り返すことがないために、早い段階でステージ1を与える。
- (4) ポジションの反則の判定について
 - ・ルール改正で、サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよいとなったが、フロントとバックの選手のポジションの把握を必ず行う。

【セカンドレフェリー】

- (1) 不法な行為についておよびベンチコントロールについて
 - ・ラリー終了後の相手選手に対しての言動について、最終判定後、ファーストレフェリーと協働しコートを確認する。
 - ・ネット際やベンチ等でファーストレフェリーが気づかない不法な行為があればファーストレフェリーに伝える。
- (2) ポジションの反則の判定について
 - ・サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わっているケースについて、確実に判定する。ヒットの瞬間とは、サービスが打たれた瞬間である。
 - ・ロングサーバーが起った際の確認を十分に行い、両チームに適切に指導する。
- (3) 試合中のスコアラーのコントロール、不測の事態を的確に処置する。スコアシートの最終確認を確実に行う。
- (4) 不法な行為や不当な要求・遅延行為に対する取り扱いを正しく理解し、試合の中で適切かつスムーズに処置を行う。

【スコアラー】

スコアシートの記入ミスがないようにするため、常にサービス順、得点の確認を行い、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。（JVIMSがある場合は、その情報も参考にする）

【アシスタントスコアラー】

- (1) 不法なリベロリプレイスメントの際の手順について、正確に行う。
- (2) スコアボードの得点が正しいか常に確認し、スコアラーを補佐する。

ルールの改正点・修正点

1 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、2025年1月にFIVBより「ルールブック2025 - 2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに2025年度版ルールブックの改・修正点を以下のようにまとめた。

ケースブックについても2024年に改訂版が公表され、削除や追加されたケースなども多く、この機会に全体的な見直しを行った。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

●改正点

7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。

サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

7.4.4 サービスヒット後、両チームの選手は自チームのコートとフリーゾーンのどの位置にいても移動してもよい。

10.1 ネットを通過するボール

10.1.2 チームが1回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外からネット垂直面を越えて相手フリーゾーンに行った場合、チームの許容ヒット内で以下の条件のもとにプレーしてボールを取り戻すことができる。（第5図b）

10.1.2.1 規則11.2.2.1の場合を除き、選手が相手コートに触れない。

10.1.2.2 ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部は再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。 そうでない場合はボールアウトとなる。

相手チームはこの動作を妨げてはならない。（第5図b）

10.1.2.3 チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールが

ネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

11.4 ネット近くの選手の反則

11.4.1 相手チームのアタックヒットの前または同時に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。（規則11.1.1, 第11図⑳）

12.5 スクリーン

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。

意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

23.3.2 試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ。

23.3.2.3 次のことを判定する。

i) サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがファーストレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。（第11図⑯）

24.3.2 試合中、セカンドレフェリーは次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。

24.3.2.8 サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがセカンドレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。（第11図⑯）

29.2.1 ラインジャッジはフラッグ（40×40 cm）を使用して次のことをシグナルで示す：

29.2.1.3 ボールがアンテナに触れたとき、またはサービスボールおよびチームの2回目または3回目にヒットされたボールが許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。（規則8.4.3, 8.4.4, 第5図a, 第12図④）

● 修正点

1. リザーブレフェリーの責務についての条文を修正した。

26.2.5 セカンドレフェリーを補佐し、プレーの妨げとなるものがフリーゾーンにないように注意する。

26.2.6 セカンドレフェリーを補佐し、退場や失格となったチームメンバーがチーム控室に行くように指示をする。

26.2.9 ファーストレフェリーを補佐し、モッパの任務を管理する。

2. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

3. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

【1】 プレーの動作に関する事項

9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは身体の中のどの部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.2.3 ボールは接触が同時であれば身体のさまざまな部分に触れてもよい。

例外：

9.2.3.1 ブロックでは、1つの動作中であれば1人または2人以上のブロkkerが連続して接触してもよい。（規則 14.2）

9.2.3.2 チームの1回目のヒットでは、1つの動作中であればボールは身体の中のさまざまな部分に連続して接触してもよい。（規則 9.1）

9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前にボールを4回ヒットすること。

（規則 9.1, 第 11 図⑨）

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。（規則 9.1.3）

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触しているところから離れない。（規則 9.2.2, 第 11 図⑩）

9.3.4 ダブルコンタクト：1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体の中のさまざまな部分に連続して触れること。

（規則 9.2.3, 第 11 図⑪）

（注）

- 1 プレーのハンドリング基準は、すべて同一である。
- 2 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。
- 3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。
- 4 特にオーバーハンドパスにおいて、手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーは、キャッチの反則となる。

10.1 ネットを通過するボール

10.1.2.3 チームが 2 回目または 3 回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

(注)

- 1 ファーストレフェリー、セカンドレフェリーは、2 回目または 3 回目にヒットしたボールが、それぞれのレフェリーサイド許容空間外側のネット垂直面を通過した瞬間にホイッスルをする。

11.4 ネット近くの選手の反則

11.4.1 相手チームのアタックヒットの前~~または同時に~~に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。(規則 11.1.1, 第 11 図②)

(注)

~~1 相手のアタックヒットと同時なのか、アタックヒット後にブロックの手が触れているのかを見極める必要がある。~~

- 1 相手空間内で、相手のアタックヒット前にブロッカーがボールに触れた場合が反則となる。
- 2 アタックヒットと同時にブロックの手がボールに触れても、反則ではない。

12.3 サービスの許可

ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。(第 11 図①)

(注)

- 1 コート上に 5 人だけ、または 7 人の選手がいるときには 6 人になるよう、サービスのホイッスルの前に促す。
もしファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。
- 2 ポジション 4 にリベロがいる場合は、ファーストレフェリーはチームが正規の選手にリプレイスメントするのをサービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレイスメントが行われない場合は、セカンドレフェリーを通してアシスタントスコアラーに確認後、リプレイスメントさせ、その後遅延行為に対する罰則を与える。
もしラリーが始まった場合、ポジショナルフォルトとして処置をする。
- 3 サービス許可のタイミングで、その他の不法なリベロリプレイスメントが行われており、ファーストレフェリーが分かっている場合も、上記 2 と同様の処置を行う。

12.5 スクリーン

12.5.1 サービングチームの選手は、1 人または集団でスクリーンを形成してサービスヒットおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1 人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービスヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーンとなる。サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスクリーンではない。（第6図）

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。

意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

（注）

- 1 チームが意図してスクリーンを形成している場合や、プレーヤーが手を頭より上に上げている場合（頭を保護するために、頭の後ろに手を上げることは許される）、スクリーンの反則になることがある。
- 2 上記のようなケースをサービス許可前に気づいた場合は注意をする。また、サービス許可後に生じた場合はラリー終了後に注意をする。

【2】 プレーの構造に関する事項

7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。

サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

7.4.3 選手のポジションは次のとおりコート面に接している両足の位置（最後にコート面に接触していた部分）により決定し、コントロールされる。

7.4.3.1 各バックプレーヤーは対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターラインから遠い位置にいなければならない。

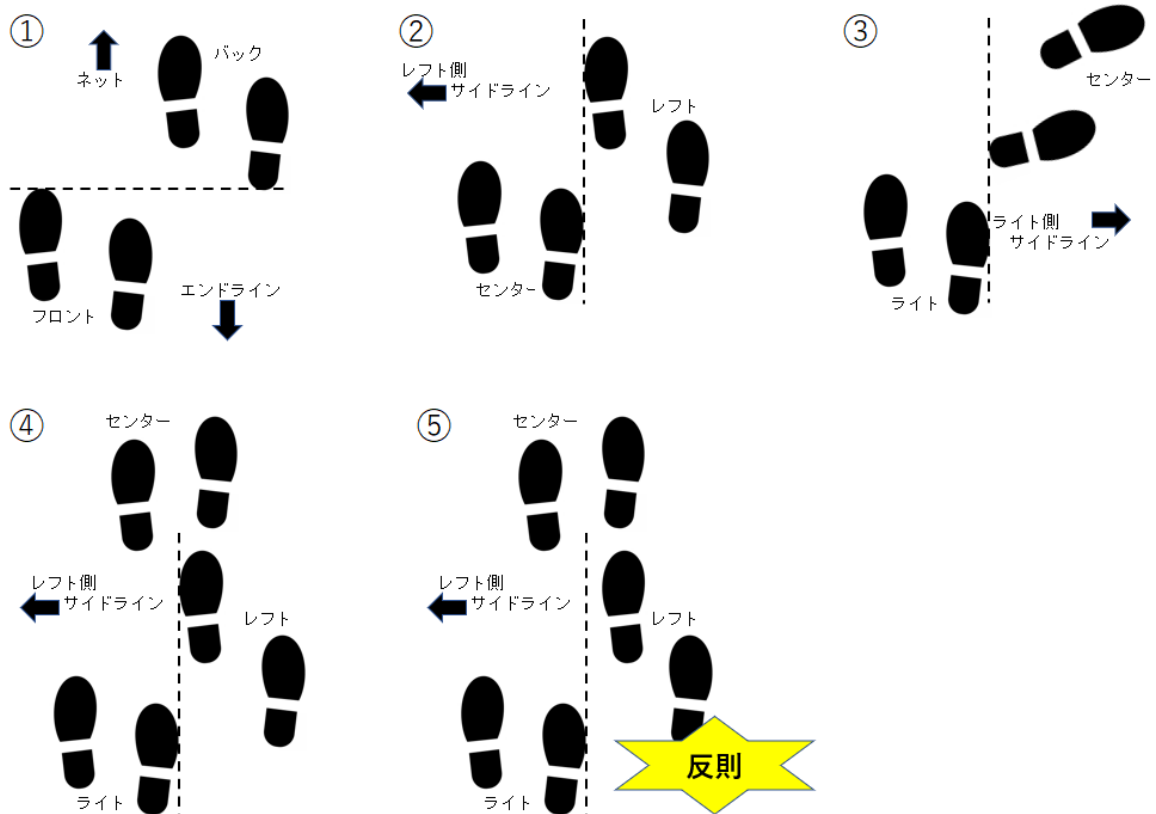
7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいなければならない。

(注)

- 1 サービングチームはローテーション順に位置していなくても反則にはならないが、コート内に位置していないと反則となる。また、サービングチームはフリーポジションではないので、レフェリーはフロント・バックなどのポジションの確認は必要である。
- 2 レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サービスヒットの瞬間である。そのためサーバーがボールをリリースしてからヒットの瞬間までに、ポジションが完全に入れ替わったケースは反則となる。
サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わり反則となっているケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
- 3 サービスヒットの瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。

(注)

下図①から④はいずれも反則とならない。



【3】 競技参加者の行為に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者はレフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対してもフェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。
- 3 不法な行為については、その程度の種類に応じて、適切な処置を行う。
- 4 競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①ファーストレフェリーが最終判定を出した後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して抗議や不服的な態度を必要以上に示した場合。
- ②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 5 試合中に監督をはじめチームスタッフやゲームキャプテン以外のチームメンバーが、レフェリーに質問等、発言をすることはできない。

ただし、監督はリベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものはできるが、セカンドレフェリーやスコアラーに、説明を求めたり、長く話しかけたりするようなことはできない。

- 6 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL 2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。

ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

- 7 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

2025年度 小学生ルールの取り扱いについて

2025年4月13日(日)
日本小学生バレーボール連盟
審判委員会

2025年度6人制競技規則の改修正点、2025年度6人制ルールの取り扱いに準拠し、以下を主に小学生ルールの取り扱いとして、確認することとする。

(1) スクリーンについて

2025年度6人制ルールの取り扱いと同様に扱う。
ただし、小学生はフリーポジション制であることを踏まえ、ファーストレフェリーは、選手の位置をよく確認してから、サービス許可のホイッスルを行う。
フェアプレーの精神から、戦術的にスクリーンを形成することを許さない。
スクリーンに関する注意は、何度でも行うことができる。**小学生連盟での教育的指導とは別である。**

(2) テクニカルタイムアウト（TTO）について

選手の健康と安全に配慮をするために導入されているが、近年、ベンチスタッフが指導する場面が多く見られた。

TTO中における選手の位置はこれまで曖昧であったため、ベンチ横からウォームアップエリアの間※1とし、ベンチスタッフは健康観察の声かけ程度ということを再確認する。

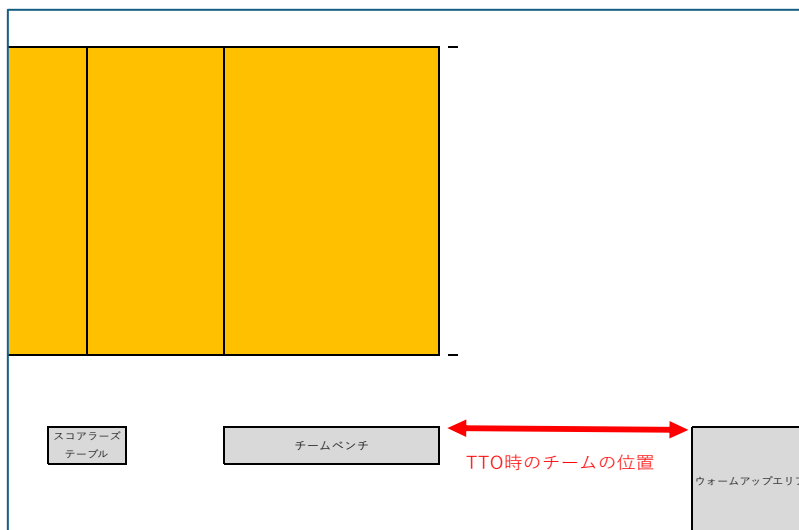
TTOは健康観察を目的とするため、30秒間は指定の場所にとどまること。※2

（30秒を待たずにコートに入ることはできない。）

選手はウォームアップすることはできない。また、**ホイッスル前にベンチスタッフの前に集合することなく、ホイッスル後、速やかにコート内に入ること。**

※1 会場によっては、この限りではない。

※2 選手は休息のためチームベンチに座っていても構わない。



(3) タイムアウト中における、柄付きモップのモップがけについて

柄付きモップの使用は強制ではない。コート内の選手との接触事例も起きている。
コート内の選手が、必ず1名以上、汗等で濡れたフロアを拭くためのワイピングタオルを持つように、レフェリーはトスの時に必ず伝えること。

日本小学生バレーボール連盟 令和 7 年度全国審判講習会資料

日本小学生バレーボール連盟 競技委員会

○小学生バレーボール大会における競技取り扱いについての共通理解

1. テクニカルタイムアウトについて

※テクニカルタイムアウトは選手の健康と安全のために適用されるものであることを再確認し、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ・選手はベンチ横からウォームアップエリアの間の位置に 30 秒間とどまること。
- ・テクニカルタイムアウト中は、ウォームアップはできない。
- ・ベンチスタッフの声かけは、健康観察のためのものである。

○全日本バレーボール小学生大会全国大会においては、小学生バレーボール競技規則の通り各セット 1 回のテクニカルタイムアウトを適用する。

デュースが続く場合の取り扱い

第 1、第 2 セットでは、両チームが 31 点に達したときに適用し、その後は 10 点ずつ積み重ねた段階で適用する。3 セット目は両チームが 21 点に達したときに適用し、その後は両チームが 7 点ずつ積み重ねた段階で適用する。

○都道府県大会等において、会場に空調設備がなく、選手の安全が確保できないと大会実行委員が判断した場合には以下のように適用してもよい。

テクニカルタイムアウトを 2 回適用する場合の取り扱い

第 1、第 2 セットでは、リードしているチームが 7 点と 14 点に達した時、第 3 セットはリードしているチームが 8 点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2 セットは両チームが 25 点に達したときに適用し、その後は両チームが 7 点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3 セット目は両チームが 21 点に達したときに適用し、その後は両チームが 7 点ずつ積み重ねた段階で適用する。

2. ユニフォームについて

①ユニフォーム規程

選手番号

都道府県名の大きさと位置 チームネームより小さい（高さ） 袖か襟下

②パンツにチーム名を入れることについて

JVA 競技普及推進部からの回答

入れてもよいが、細かな規定（大きさ等）は、今後検討していくことになる。

③混合の男女判別

男女で違うユニフォームを着用すること。ただし、違うユニフォームを用意できない場合や、違うユニフォームであっても類似して一目で見分けがつかない場合には、ソックスの色を変えるかまたは男子・女子のいずれかが識別用バンドを腕か足首に付けて一目で判別できるようにすること。

※審判委員が一目で判別できることが大前提

③ウェア等公認制度について

2025年版がHP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。1社追加

3. ベンチへの持ち込み物について

①飲料水の水筒→ペットボトルは不可だが、スクイズボトルや吸引式のボトルでなくてもワンタッチ式の蓋つき水筒であれば問題ない。

②キャンプカート→安全面、屋外の汚れを入れない観点から**使用禁止**

③スマートウォッチ→時計としての使用は認める。(通信機器やカメラとしての**使用禁止**)

② ③については昨年度確認済みで、大会でも守られていた。

① について、ベンチスタッフ、審判委員等大人のペットボトル使用を認めるかは、各大会の実行委員会にて施設等の決まり等を確認して判断する。

4. 試合中の応援団グッズの使用及び応援マナーへの対応について

平成19年に、監督から選手への指示の声が聞こえなかったり、選手が集中できなかったりするという理由から、太鼓・ラッパなどの大音量を発生する「鳴り物」は複数コートで試合をしているときには使用しないとの通知がされ、現在も適用されています。メガホンやバルーンは鳴り物にはあてはまらず、使用については規制してはおりません。

応援によって選手を励まし、大会を盛り上げることは素晴らしいことであるが、反面応援が選手にとってマイナスとなるケースも見られるので、応援のマナーとして特に以下の点について指導していくこと。

- ・審判のホイッスルが聞こえなくなるようなプレー中の応援はしないこと。
- ・相手チーム自チームに限らず、選手が萎縮してしまうような罵声はださないこと。

○全日本バレーボール小学生大会について

1. ユニフォーム確認について

45回大会においても、都道府県大会において各都道府県競技委員長により確認をする。ただし、今大会ベンチ入り選手が14名になったことから、13・14番については、今大会に限りユニフォームが揃わない場合にはTシャツにゼッケン等で番号を入れた服装でのベンチ入りを認める。

2. 他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認について

資料「他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について」

資料「他の都道府県在住の新年度移籍登録選手一覧表」

日小連 HP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。

44回大会においては、該当選手は1名

3. 試合間のチームの入れ替えについて

資料「審判委員とコート委員の連携と役割分担」

可能な限り、ブロック大会や都道府県大会でも運用してほしい。

グリーンカード

日本小学生バレーボール連盟の根底の考えは、バレーボールを通して子供たちの健全育成を支えていくことにあります。また、奈良県小学生バレーボール連盟においても前述の考え方に賛同しています。ルールやマナー、スポーツマンとしての心得などをしっかりと身につけた良いプレーヤー・よい人間を育てていきたいと思っています。そのためには、子供たちの好ましくない行為を指導するだけでなく、フェアプレーや善い行いは賞賛し広めていくことが大事であると考えています。グリーンカードを用いて、みんなが善い行いでつながっていきましょう。

グリーンカードを持つのは 大会役員、審判員です。

コートの上で

審判員は試合中の子供の行動を評価しましょう。

- 例 1 ミスをした選手に対して、積極的に励ましの声かけをした。
- 例 2 不利な判定になる場合でも、正直に自己申告をした。
- 例 3 点差や状況にかかわらず、最後まで全力でプレーをした。
- 例 4 判定を素直に受入れ、終始フェアな態度で試合を終えた。

使用するタイミング

選手に対して

- ・判定終了後、左手で選手を示し、右手でカードを示す。

チームに対して

- ・試合終了時、サイドを挙げて、片方の手でカードを示す。

コートの外で

大会役員、審判員、指導者が協力して子供たちの行動を評価する

- 例 1 礼儀作法など、基本的な習慣が他のチームの模範になる。
- 例 2 ラインジャッジなど、補助員の役割に真剣に取り組んでいる。
- 例 3 会場のゴミを拾うなど、施設や用具を大切に扱っている。
- 例 4 チームのためにボール拾いや応援を頑張っている。

使用するタイミング

適切なタイミングで使用し、子供たちにフェアプレーの大切さを伝える

ありがとう
フェアプレー

JEVA